

コロナ感染 第4波に突入。 自助自肅だけ強調する政権NG!

求む!
日本を支える人材

高収入

学歴詐称可

仕事極楽

規律極甘

勤務中居眠り黙認

感染則入院等の

特権有

要
有名政治家
または
成金の子弟。



【主張するネコたちのこと】シェアもコピーも自由です

この二十年、デフレに

突入して政治の腐敗、劣

化が目立つ。コロナ感染

対策で世界と比較するた

び、後進国になったこと

を実感する毎日。

「安倍以外だれでもい

いねと言った罪」を感じ

る筆者。

ことしは選挙の年。先

日東京小平市長選で野党

が勝利。時代を変えたい。

国境のテントの列に子の笑顔 お願いと謝罪はするが無責任

国際ニュースの命をかけた難民たち。国境に並ぶテントで無邪気な子どもの笑顔だけが一筋の希望だ。日本、相変わらず頭を下げる政治家や役人の姿。これには希望はない(周)

周立東 筆
小山広助

◆ 目次

| | |
|---------------|----|
| 川柳互選・課題吟「国」 | 2 |
| 自由吟 | 3 |
| おたより | 5 |
| ほのぼの川柳／狂歌 | 7 |
| 連作／川柳ひと言 | 8 |
| 投稿 ワクチン由来について | 9 |
| 戦争前夜抄(26) | 11 |
| 過去の内容紹介(目録) | 11 |
| 編集後記を兼ねて | 16 |

例会案内

4月例会
投稿締切
課題「耳」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

19日(月)
3句以内
5句以内

4月22日(木)

4月の例会は誌上です。

3月の
川柳互選

◆点の付け方

推薦句◎…2点、準推薦句○…1点
◎3句以内。○全体の半数以内。

◆課題吟「国」(互選)

一人3句以内吐

(投句15人/14人の互選)

- | | | |
|---|-------------------|-----|
| 1 | コロナ禍は国より個大切を育てけり | ふさこ |
| 1 | コロナ禍は大義名分使い分ける国育て | ふさこ |
| 1 | 大村博士を黙殺する国ノーベル賞の | 未知子 |
| 2 | 街で持つシールボードで友は燃え | 一角 |
| 2 | 日本国の総理があまりにもせこい | ダン吉 |
| 3 | 国のため雪隠詰めを考える | 一角 |
| 3 | 総務省文科省接待亡国ぞ | 日下宏 |
| 3 | 鶴彬国粹主義に立ち向かう | 尊柳 |
| 3 | 脱炭素裏で原発薦め | 広助 |
| 3 | 皆伐の国土いのちを侵食す | 白眞弓 |
| 4 | 良い人に見えるね奴の国訛り | ダン吉 |
| 5 | 核のゴミ20万年先責任は国 | 宏 |

- | | | |
|---|------------------|-----|
| 5 | 国民の苦勞をよそにはぐらかし | 北の山 |
| 5 | 四國五郎地の底からの叫び描く | 白眞弓 |
| 5 | この青い地球を仕切る世界地図 | 亀公子 |
| 5 | 多種の中国産マスク探す我 | ひろみ |
| 6 | 大邱桜侵略国の夢の跡 | 白眞弓 |
| 6 | いい句より国を憂いて句を吐いて | 一角 |
| 6 | 国産菓使わずコロナ蔓延し | 未知子 |
| 6 | 国歌斉唱座つたままじゃクビですか | 亀公子 |
| 6 | 唯一の被曝国で批准せず | 高坊 |
| 6 | かの国で「さくら」歌えずただ涙 | 未知子 |
| 7 | 難民を断固拒否する純血国 | 立東爺 |
| 7 | 沖繩も日本国じゃないですか | ダン吉 |
| 7 | 被爆国橋渡し役「核」仮面 | 宏 |
| 7 | コロナの災降り注いでる神の国 | 徹乗 |
| 7 | まだ俺を覚えているか故郷は | 北の山 |
| 7 | 警鐘だ国民管理デジタル庁 | 広助 |
| 8 | 旅先でお国訛りの底力 | 北の山 |
| 8 | 国会が嘘つき放題の茶番劇 | 高坊 |

| | | |
|---|-------------------|-----|
| 1 | 放射線人住まわせず牛のみ生かす | ふさこ |
| 1 | 観劇もレセプシヨニストに手を引かれ | 一角 |
| 1 | 沈黙は金に輝く香港島 | 立東爺 |
| 1 | 病の中ウナギ欲するも見てるだけ | ひろみ |
| | 運もあるが物にしたのは汗でした | ダン吉 |
| | 次々と真贋決めかねひと休み | 立東爺 |

◆自由吟

(互選)

一人5句以内吐
(投句14人/14人の互選)

| | | |
|---|---------------------|-----|
| 6 | 虚偽答弁空しく時が過ぎて行く | 北の山 |
| 5 | 官邸の空気澱んでいませんか | ダン吉 |
| 5 | 大物に見えたが小物菅政権 | 広助 |
| 5 | オリンピック小学生も言わないぞ | 徹乗 |
| 5 | 英の核ヒロシマの涙溢れさせ | 馬頭琴 |
| 5 | 世界危機一億人の感染者 | 尊柳 |
| 4 | 会えないよ県外姉と長電話 | ひろみ |
| 4 | また淋し我を残して友が逝く | 北の山 |
| 4 | GOTOはコロナの後の策とは知らず | 馬頭琴 |
| 4 | 2割アップ民のいじめなり健保料 | 宏 |
| 4 | 無理せずにと意欲もなくしお呆け入り | ひろみ |
| 4 | 夢の島大きな石の静かに眠る | 白眞弓 |
| 3 | 最高裁差し止め一転運転容認 | 高坊 |
| 3 | マスクからのぞく目の周囲シワだらけ | ひろみ |
| 2 | シャワー室作るなら苦しむ人に手をのばせ | ふさこ |
| 2 | 塩撒けばオリンピックも出来るとか | 白眞弓 |
| 2 | 鳥根県知事聖火リレー中止の弁 | 宏 |
| 1 | 聖火リレー土砂崩れもありそう | 白眞弓 |
| 1 | 民主主義国民もう一度振り返ろう | ふさこ |

| | | |
|----|------------------|-----|
| 9 | 朝鮮哀史三十八度線の壁厚い | 尊柳 |
| 9 | 国が揺れ二つの心配人と核 | 高坊 |
| 10 | 国難でひよつこ顔だすヒットラー | 徹乗 |
| 10 | 利権利権利権利権だらけの民主主義 | 徹乗 |
| 11 | 国を挙げ五輪感染暴走し | 広助 |
| 12 | 貧困が裏に貼り付く無国籍 | 亀公子 |
| 14 | コロナ危機国の姿勢を炙り出す | 尊柳 |
| 14 | 国境に張り付く命つなぐ群れ | 立東爺 |
| 16 | 国境のテントの列に子の笑顔 | 立東爺 |

| | | | | | |
|---|----------------------|-----|----|------------------|-----|
| 6 | 訳あつて記憶力ある沈黙者 | 立東爺 | 8 | コロナ禍の友の訃報に泣く無念 | 尊柳 |
| 6 | 忘れっぽい官僚増えていますせんか | ダン吉 | 8 | 話し合い飲み会なしでなぜできぬ | 北の山 |
| 6 | せり立つて海に牙むく防潮堤 | 亀公子 | 8 | 夢少し捨ててコロナに身構える | 広助 |
| 6 | 恩恵を授ける福祉の窓口士 | 白眞弓 | 8 | 選挙とは負けるとわかつて行く投票 | 白眞弓 |
| 6 | マスクまで耳は働きの者ですね | ダン吉 | 8 | 経済主義ペストの教訓生かされず | 尊柳 |
| 6 | ワクチンの投与を前に罰則も | 広助 | 8 | 五輪より注目されるスキャンダル | 徹乗 |
| 6 | このままじゃ笑う日が来ず泣くばかり | 高坊 | 8 | 原発を稼働し事故の尻拭い | 徹乗 |
| 6 | マイナンバー秘密を盗む5千円 | 馬頭琴 | 8 | 政治家の言葉軽くなりました | 立東爺 |
| 7 | 取り違えていますせんか個人主義と民主主義 | ふさこ | 8 | 命令で更にひつ迫飲食店 | 高坊 |
| 7 | 電話機に接待料が含まれる | 一角 | 8 | 地震並心身蝕ばむ低飛行 | 馬頭琴 |
| 7 | コロナ危機政府の無策曝へ出す | 尊柳 | 9 | 感染数で上下している菅の支持 | 徹乗 |
| 7 | 官邸の経済第一自助の庄 | 日下宏 | 9 | 死に体の五輪に巢喰う蟻地獄 | 亀公子 |
| 7 | 聖火よりコロナ対策ゴテゴテぞ | 日下宏 | 9 | 新基地はジュゴンサンゴも死の海へ | 宏 |
| 7 | 絶滅の危惧種たらんや和平の火 | 亀公子 | 9 | 故人をもちコール署名で蘇生させ | 馬頭琴 |
| 7 | 麻生節? マスクいつまでするの馬鹿発言 | 高坊 | 9 | デジタル法今と未来を盗み取り | 馬頭琴 |
| 7 | 3・11 忘れない内再稼働 | 広助 | 10 | 自粛なぞどこ吹く風の繁華街 | 一角 |
| 8 | 影うすい五輪コロナが接待で | 一角 | 10 | 原発禍デブリ炉の底閣の中 | 亀公子 |
| 8 | 役人の李下に冠どこ行つた | 北の山 | 10 | 幕引きを他山の石でかたづけ | 亀公子 |

- 10 押し入れからポロリと落ちたアベマスク 徹乗
11 接待の話はどこからもこない ダン吉
11 自然破壊しつぺ返しをするコロナ 尊柳
13 口裏を合わす大臣テレワーク 一角
15 初めから裏ばかりです「おもてなし」 立東翁
15 お願いと謝罪はするが無責任 広助

おたより

◆おたより 中野 林さんより (さいたま市)

健康上の理由により、退会のお願いを申しあげます。2009年5月の「和」句報No.565から、岡田一杜先生をはじめとした、同人の皆さまのご指導をいただいで今日にいたっております。感謝あるのみです。

『和川柳社』の発展をお祈りしております。重ね重ねありがとうございます。同人の皆さまのご健康・ご発展を祈念いたします。(出町 正俊)

2021年3月22日 中野林(出町正俊)

《編集部から林さんへ》足かけ二十二年の長い間、毎月欠かさず投句、自薦句などを通して、我々後進のためご指導ありがとうございました。退会されても友好の縁ですので会報は送らせていただきます。気が向いて川柳が出来ましたら、いつでもFAXでお送り下さい。会報に紹介させて下さい。

◆おたより 小野寺 茂さんより (足利市)

鶴彬との出会い、「和川柳社」さまとの出会いは、小生の81年の人生に貴重な歴史を刻む思いです。

B29の爆撃に会い命拾いをした体験(竹藪に逃げ込み左隣の人が爆弾の破片で死去)から、反戦が生涯のテーマになりました。その意味で不屈の反戦思想には心打たれました。

従って、「鶴彬の業績を伝え、広げる活動」は大事な反戦活動と思い、年会費弐千円を添え申し込みます。尚、「川柳マガジン」3月号の川柳道課題「不屈」に「獄死まで反戦叫ぶ鶴彬」を投稿した処、佳作に取り上げられました。又、十六世

尾藤川柳の「川柳史に影響を与えた100人
西島〇丸かんまる」の記事の中で『鶴彬』を取り上げて
おります。参考に同封致します。

◆おたより 岩佐ダン吉さんより（大阪）

「誌上句会」の参加者もぼちぼち頭打ち。残念な
ことに府下の川柳社も二割ぐらいが解散と休会
になっていきます。あかつきも6月ぐらいをめぐ
りに会場句会へ、幹事会も再開の予定です。高校
での「お話とレッツ川柳」もまず好評。『あかつき』
誌で紹介します。

《ジュニアと川柳授業中》

2月の終わり大阪府下の高校で「お話とレッ
ツ川柳」と題して二時間の授業に参加しました。
岸和田周辺と5つの川柳教室をやっていますが、
ジュニアとは初めてでした。

先生をはじめ生徒は十数名、皆さんそれなり
話も聞き、兼題「歩く」にも何人か投句があり
ました。

家庭の貧困や仲間、苛め、不登校もあり、高

校生も大変な中で…。選句は「あかつき川柳会報」
5月号で発表する予定です。

◆おたより 坂本ふさこさんより（金沢）

ようやく春の日差しが感じられます。何もかも
遅めですが、いつもありがとうございます。

遠田さんの「単に悪口を言うだけでは川柳では
ない」との心はよく分かりますが、現在の日本、余
りにも総てが行き過ぎと言うか、何をどう考えてい
けばいいのか分からぬ国の状況で、行く末が不安で
いっぱい、吐露することが出来なくてイライラし
ます。今回はテーマが「国」でしたので、言いたい
ことを書きました。

一人でも読んで下さる方がいたら嬉しいです。お
手数かけますが、まさに気になっている事すべて吐
きました。

（編集子より）たくさん投句され、ありがとうござ
います。川柳の「枠」を超えた怒りの様子はよくわか
ります。その中のいくつかは五・七・五に入りきれず、

前号で白眞弓さんが詠んだ「狂歌」にする方が気持ち伝わるのではないかと思ひ「狂歌コーナー」を作り掲載させていただきました。

◆おたより 浜本 大蔵さんより (伊勢原市)

『北陸の鉄路』をお送り下さり、ありがとうございます。懐かしくその頃を思い出しました。そんなことでついその頃の金石線にまつわる私の思い出を綴ってしまいました。この歳になると、益々ふるさとの思いが強くなります。単なる感傷的な思い出です。

ほのぼのの川柳

| | |
|-------------------|------|
| 会社にはお世話になってありがたや | 神田 鯛 |
| 我が子達元気にしてくれ嬉しかな | 神田 鯛 |
| はやりものブームが去るとゴミとなり | 寿賀子 |
| ネコだけの遊び場となつてい砂場 | 東 爺 |
| 手をつなぎ園児のおさんぽ車道脇 | 東 爺 |

新コーナー

(編集子注：浜本さんは金沢市大野(金石のとなり町)出身。六〇年間の鉄道写真集『北陸の鉄路』(友人が撮り続け先日中日新聞から出版)を紹介したことで長文の感想が届きました。機会があれば紹介したいと思います。)

◆おたより 筆名・尉じょうさんより (金沢市)

貴会報で亀公子氏から刺激を受け、川柳という詩型で私も庶民の哀歓をユーモラスに表現したく、勉強させていただきました。

(編集子より) 〓ご参加ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします。()

狂歌

坂本ふさこ

言いたいことしたいことし放題
どこまで国は許すのか
ガラス張りシャワー室
皆さん入りに来てと公募かな
放射線浴びた牛のみ歩く映像
悲しすぎたり腹立たし

◆川柳連作『万札』 尉(じょう)

老夫婦の食費月額二万円

役人の接待一夜五万円

長寿への年金月に六万円

何もかも込みで小遣い三万円

家計へと小遣いが減り二万円

◆川柳連作『青春残像』 遠田亀公子

青春のためらい傷に疼く夜

青春の火種が残る古日記

青春の門にあいあい傘の傷

論争に未来があつた四畳半

明け暮れた反戦デモの青春譜

コッペパンに夢を繫いだ寮の部屋

国会のフランスステテに見た戦後

差し入れにシュプレヒコールと連帯歌

残像の真つ直ぐ前にいるゲバラ

振り向けば空に自由な根無し草

亀公子の《川柳ひと言》

前にも言ったが、鶴彬の生きた時代と我々の生きている時代は百八十度違う。彼の時代は戦争に突入していく異常な時代で、天皇を頂点にした国家が人の生き方を決めていた。国家に対する不満分子が悉く排除された道は、「一億総玉碎」だった。その為にどれだけの犠牲を自国民だけでなく他国民にも強いただろう。鶴彬はその本質を見抜き身を挺して告発したことで獄死した。

他方、我々の時代は自由に物が言え行動が出来る社会だ。でも我々はそのぬるま湯の中にいて愚痴小言の類を吐き出している過ぎないのではなからうか。かつて私は青春時代の一時期を学生運動に身を置いた。そこで思い知らされたのは新しい国家の矛盾と高い鉄の壁であった。さまざまな情報が溢れる現代の奥に隠されたインチキを見抜く能力を身につけてこそ川柳生としての第一歩があるに違いない。鶴彬と繋がる道はそこからだろう。

ワクチンの由来について若干……

I. H.

新型コロナウイルスの感染拡大を抑え込むには、世界中がワクチンに救いを求め、各国がしのぎを削っている。成果が出る事を願うばかりと成っている。

処で、「ワクチン」を英語では、「VACCINE」と成る。これは、ラテン語で言う「VACCINA」つまり、雌牛から来ているそう。何故か、以下述べたい。

かつて、長路に渡り人類を苦しめ、現在は撲滅されたとされる天然痘を例に、「美しき免疫の力」(ダニエル・M・デイヴィス著、久保尚子訳)の李を参考にした。

天然痘の致死率は20%〜50%と高く、治癒しても痘痕が顔や体に残るそう。伊達政宗・夏目漱石・スターリンも天然痘に罹ったそう。かつて、沖縄では痘痕の事を「美ら瘡」(ちゆらかさ) Ⅱ「美しいかさぶた」と言っていたようだ。痘痕や運命を忌み嫌うのでなく、逆の発想で、「痘痕もえくぼ」だと言う気持ちで生きていく力にしたのかも。せせんね。

一旦、天然痘に罹ると二度と罹らないことから、近代の医療処置として確立される前から、古くから、中国・インド等で人為的に天然痘に罹らせる「人痘種痘」が行われた様だ。軽い症状で済む人もいるが、百人に一人く

二人程死者が出る危険性が有った。

18世紀入りヨーロッパでは天然痘が流行り犠牲者の80%程が子供だったそう。1721年、英国王室は自分の王子と王女の身を案じた時から、「人痘種痘」に科学の目が向けられた様だ。王室の権力で「臨床試験」の被験者なる「有志」実は、死刑囚六名が選ばれた。死刑による死か、人体実験による死か生か、もし、生きておれば、無罪放免で社会に出れるという条件だ。「死なない程度に少量の天然痘に触れさせる」技だが、果たして可能かどうかあやふやだった。天然痘患者からの皮膚と膿が囚人の腕と脚に擦り込められた。鼻に擦り込められた女性囚人もいた。彼らは天然痘の症状を発症し、一〜二日苦しんだが、回復した。鼻に接種された女性の囚人は特に重症だったが、やはり回復した。六人は釈放された。その数か月後の一七二二年四月、皇太子と王女に接種を受けさせた。上手くいったようだ。このことが世間の注目を集めたが、接種により死者が出る事も有るので、賛成の意見だけでなく、反対の意見もあつた様だ。

その後、英国の田舎の医師だったジェンナーが素晴らしい発想を考え出した。

ジェンナーは医師である以上、天然痘の有効な治療法を考えていたであろう。ある時、牛の乳搾りをする女性達は天然痘に罹らないらしいと言う話を耳にする。そこで、医師のジェンナーはひらめいた。乳搾りの女性は、

天然痘に罹った牛（牛痘）に接しているうちに、軽い感染症に罹り、その為に、恐ろしい人間の天然痘に対する防衛能力を獲得したのではないだろうか。

人間の天然痘患者から採取された膿の代わりに、人間を死に至らしめる事の無い牛痘の水疱からにじみ出した膿を使えば、人間の天然痘を予防出来るかもしれないと考えた。つまり、人痘種痘から牛痘種痘への転換である。

ジェンナーは一七九六年五月、有名な実験を行った。牛から牛痘をうつされた乳搾りの女性から膿を採取して、庭師の息子で八歳に成る少年に接種した。牛痘による軽い発熱が有り、それが収まった後に、今度は人間の天然痘患者から採取した膿を接種したが、感染発祥しなかった。その後、ジェンナーは他の小児にも繰り返し試し、生後十一カ月の自分の息子にも試し確信した様だ。

最初のうちは、自分の研究成果の論文を「1808年9月に自費出版し、ロンドンの2軒の書店のみで販売した。その後大成功を収めた様だ。ジェンナーの成果後、ワクチン接種の進歩により、一九八〇年五月に、WHOによる「天然痘根絶宣言」が発せられた。

ところで、「ワクチン」と言う用語についてであるが、ジェンナーの友人がジェンナーの成果のプロセスを説明する為に生み出した造語であり、「雌牛」を意味するラテン語「VACCINA」が語源である。ワクチンの発見の元が、雌牛の牛痘から来ていたからであろう。当時、イ

ギリスは産業革命が始まった頃であるが、世界の未だ覇者ではないので、大陸のヨーロッパから見ると、英語は「田舎語」であったようだ。当時は、学術用語にはやはり、ラテン語の方が権威があったのかもしれないね。

新型コロナウイルスの「ワクチン」に関しても、天然痘の「ワクチン」の原理と似ている。弱毒化した病原体を体内に入れ軽く感染させ、免疫を作り予防する。別には遺伝物質を人工的に作り、体内に抗体を作るのだそう。専門的に成ると説明が難しくなりますね。しかし、天然痘や一九一八年に発症した「スペイン風邪」もウイルスが原因であるが、発症当所は原因が分からず、原因のウイルスを深く洞察し、肉眼で観察出来たのは、一九三〇年代に成り電子顕微鏡が発明されてからである。

病原体特に感染力の強い天然痘がヨーロッパ人のアメリカ大陸進出、或いは良からぬ戦争によつて免疫力の無いアメリカ先住民が激減した歴史があった事は忘れてはならない。インカ帝国は天然痘により人口の6割以上亡くなった様だ。18世紀、英国がフランスとインディアンの同盟軍をやっつける為に、天然痘ウイルスの着いた毛布・ハンカチ等を各部族に送ったと言う。19世紀、白人のアメリカ人が森の中に天然痘患者が使用していた毛布や衣類を先住民が拾う様に仕向けた事もあった様だ。何と愚かな事をしたのか、反省しな。 (2021.3.2)

連載

戦争前夜抄

周立東爺

26

このコーナー『戦争前夜抄』は、今回で26回を数える。最初は「プロレタリア文学運動の盲点」として始め、途中から『戦争前夜抄』と改題しました。

継続して目を通しておられない方も多いと思いますので、仕切り直しを兼ねて、過去25回の内容を簡単に紹介します。(バックナンバー希望の方は連絡下さい。)

◆プロローグ 672号(2018・9)

「プロレタリア文学運動の盲点」

「戦争が描かれない戦時下の文学」

高橋隆治著『戦時下文学の周辺』(風媒社)で次の様に書かれていた。

「……あの戦介を侵略戦争だと知らなかったとは、戦前、戦中世代のだけれども口にする言葉だが、それは「知らなかった」のではなく「知らうとしなかった」だけである。日本のプロレタリア文学は、小作争議や労働争議をテーマにしたものがほとんどで、反軍・反戦を主題にした作品は意外なほど少数だし、ストレートに反戦に

結びつく文学はこの時期にはもはやまったく影をひそめてしまっている。なぜなら、十五年戦争は『蟹工船』が売られていた昭和十五年よりも九年も前に開始されているからである。……」

鶴彬（たづね）の川柳を念頭に置き、このコーナーがスタート。

◆第1回 673号(2018・10)

「川柳にみる戦時下の世相」

「兵士は戦争を川柳でどう描いたか」

- ・ 塹壕の夢は稲穂へ鎌をとり
 - ・ 草もない木もない土に立つ墓標
 - ・ 交替の歩哨たがい未だ無事
 - ・ 目が醒めて生きてる弾丸の音を聴き
 - ・ 大陸の暑さ華氏にて知らすなり
 - ・ 敵味方同じ虫を聴いて寝る
- など兵士の詠んだ川柳を紹介。

◆第2回 674号(2018・11)

「戦争が描かれない」

「プロレタリア文学運動の盲点」

火野葦平（ひのあしへい）が書いた戦争文学『土と兵隊』を紹介。芥川賞を受賞した火野は、日本軍の従軍作家として『麦

と兵隊』を発表。国民的作家となる。『土と兵隊』が発表された年に鶴彬が獄中で没している。伏字の多い初版『土と兵隊』の戦後に復元され部分を紹介した。

◆第3回 675号(2018・12)

「考察——戦争文学と鶴彬」

火野葦平の『麦と兵隊』は100万部といわれるベストセラーとなり、続く『土と兵隊』『花と兵隊』の兵隊三部作で葦平は国民作家となった。

◆第4回 676号(2019・1)

「考察——弾圧と拷問」

鶴彬の作品と彼の死について、その時代背景として、特高警察の拷問を取り上げた。

小林多喜二は一九三三年逮捕から一昼夜で拷問により惨殺されている。保阪正康氏が週刊サンデー毎日 に書いた拷問の様子を紹介。「平気で拷問できるのが有能な刑事」、「小柄な男で、ガラス玉のような感情のない目をしていた刑事で、残酷さ是有名でした」という。

小林多喜二を虐殺した現場最高責任者・警視庁特高部長《安倍源基―山口県出身》を紹介。

◆第5回 677号(2019・2)

「プロレタリア文学運動作家と従軍記者」

当時の文学状況を整理した。①プロレタリア文学運動の作家 ②新感覺派&芸術派 ③既成作家

戦争を描いたのは反戦を掲げたプロ運動作家ではなく、ペン部隊として従軍した火野葦平ら多数の作家たちであった。

◆第6回 678号(2019・3)

「百人余の従軍作家たち」

ドナルド・キーンさんがこの年2月に亡くなった。キーンさんは通訳官としてアッツ島玉砕の現地にいた。論文『日本の作家と大東亜戦争』で「作家たちは戦争勃発の際、ほとんど一致して軍国主義者の背後に立った。敗戦が迫ってきた時、若干の作家は意気を阻喪させたが、他のものは、さらに自己を鞭打って熱狂的な愛国主義に走った」と書いている。

初代芥川賞受賞者・石川達三「生きてゐる兵隊」を紹介し、ペン部隊の概略、参加した作家を紹介。

◆第7回 680号(2019・5)

「反戦詩人・楨村浩」を紹介。

楨村は高知県出身。3歳で医学書を読むという神童ぶり。代表作『間島バルチザンの歌』を紹介。逮捕拷問により入院、26歳で死去。命日は9月3日。

◆第8回 681号(2019.6)

「従軍作家 林芙美子」①

『放浪記』で著名な林芙美子。ペン部隊紅一点で漢口陥落後に現地一番乗りし「軍国主義を太鼓と笛で囃し立てた政府お抱え小説家」といわれた。井上ひさしの林芙美子評価について紹介。

◆第9回 682号(2019.7)

「従軍作家 林芙美子」②

井上ひさしは戯曲『太鼓たたいて笛ふいて』を書き、戦争賛美作家・林芙美子を「戦地で現実を見てから反戦へ変わった作家」として描いている。

◆第10回 683号(2019.8)

「国民を戦争に動員した仏教」 暁烏敏 ①

郷土の偉人にあげられる僧侶、暁烏敏(松任出身)について調べた。「太平が続くと、人間が利己的になる。この利己心を打破するには、戦争は最もよい導きである」とは暁烏敏の言葉である。「歎異抄」普及の第

一人者、真宗大谷派の重鎮で、戦争へ国民を動員した大きな責任を持っている。しかし郷土石川県では戦争責任の闇について語られることはない。

◆第11回 684号(2019.9)

「仏教と戦争 そして暁烏敏」②

暁烏敏は偉人か？ 暁烏と戦争の関わりを検証している。戦争推進に大きな責任があった。戦後、暁烏がなぜ真宗大谷派宗務総長にまで上り詰めたのかを考える。

◆第12回 685号(2019.10)

「親鸞と日本主義」を読む 暁烏敏 ③

親鸞の「歎異抄」を自身の指針と考える憲法学者・中島岳志の『親鸞を日本主義』を読み、戦時中の真宗大谷派の戦争協力、とくに暁烏敏の言動をもとに、暁烏の戦争責任問題を掘り下げた。

◆第13回 686号(2019.11)

「無節操な暁烏敏」 暁烏敏 ④

暁烏の戦時中と戦後の発言から、無節操を知る。戦時中の講演Ⅱ「日本の戦争は天皇陛下の大御心の発動であります。…我々はこの戦争の前に天皇陛下の前に跪かなければならぬ…」

戦後の原爆についての発言Ⅱ「アメリカは全力を注いで世界の平和を維持することに努力している。……アメリカの原子力に費やす膨大な費用も、世界の平和の為に費やす努力である」

◆第14回 688号(2020・1)

これまでの連載「プロレタリア文学運動の盲点」を『戦争前夜抄』に改めたお知らせ

◆第15回 690号(2020・3)

石川啄木 ①

石川啄木の詩『はてしなき議論の後』を紹介

これは大逆事件をきっかけに一気にかかれたもの。

◆第16回 691号(2020・4)

「啄木の大逆事件批判」 ②

明治政府のでっち上げで、死刑24名で幸徳秋水ら社会主義者や無政府主義者を一掃する事件を紹介し、それに対する石川啄木の批判の詩や論評を紹介。

また、関東大震災の時に起きた、朝鮮人虐殺事件や朴烈・金子文子事件をとりあげ、なぜ大虐殺は行われたかを考察。

◆第17回 692号(2020・5)

「金子文子、自殺への疑問」 ①

朴烈事件をもとに、金子文子の「何が私をこうさせたか」を紹介。

◆第18回 693号(2020・6)

「金子文子、自殺への疑問」 ②

松本清張の『昭和史発掘』から文子の獄中自殺への疑問を考察。また金子文子の生涯をノンフィクションでまとめた瀬戸内寂聴(晴)の『余白の春』や文子の和歌を紹介。

◆第19回 694号(2020・7)

「関東大震災、朝鮮人虐殺、甘粕事件、伊藤野枝」

大震災の裏で、権力による大殺戮事件が起きた。それぞれを瀬戸内寂聴の著作から紹介。

◆第20回 695号(2020・8)

「甘粕事件、大杉栄、伊藤野枝、宗一殺害の様子」

前回に続き、瀬戸内寂聴『余白の春』から、事件の詳細を紹介。

◆第21回 696号 (2020.9)

竹久夢二 ①

「社会主義者だった竹久夢二」

大正美人画で有名な竹久夢二は関東大震災の目撃者。金沢にも縁があり、詩や俳句、川柳も詠んでいる。彼の芸術の出発は『平民新聞』への挿入画で、社会主義青年でもあった。

◆第22回 697号 (2020.10)

竹久夢二 ②

「夢二と与謝野晶子」

日中戦争のとき竹久夢二は何を書いたか、また「反戦歌人」と思っていた同時代の与謝野晶子は反戦歌人ではなく戦争推進と天皇賛美の歌人だったことを知る。

◆第23回 698号 (2020.11)

竹久夢二 ③

「夢二 震災画信より」

夢二の関東大震災の記録画を紹介。特筆されるのは子どもの様子を書いた「自警団遊び」。自身も「いつ町角の関所で竹槍で刺されるかもしれない」と感じていた体験を語っている。

◆第24回 700号 (2021.1)

「足利尊氏 なぜ悪人なのか？」 ①

「皇国史観と戦争」

竹久夢二が非戦のメッセーじだったのと反対に、与謝野晶子が戦争推進者となる背景に、皇国史観がある。その皇国史観の犠牲者の一人が足利尊氏。なぜ尊氏は日本の三悪人とされたか？ を振り返る。

◆第25回 701号 (2021.2)

「足利尊氏 逆賊から復権への道のり」 ②

敗戦で歴史観が逆転。現人神から人間天皇へ変わる民主化教育の中でも、国民に染みついた「三悪人・足利尊氏」のレッテルは容易にとれない。逆賊尊氏の復権には歴史学者の研究の成果でもあった。森茂暁、高柳光寿などの著書を紹介。

◆第26回 702号 (2021.3 本冊子)

なお、会報は、ネットから、ダウンロード出来ます。PDFファイルで掲載されています。

【検索】▼石川県NPO活動支援センター▼NPO団体情報▼資料室▼【わ】▼和川柳社

編集後記を兼ねて

▼連日のコロナ
感染対策やワク

チン、第4波の話題で持ちきり。政府や役人のドタバタばかりで先が見えません。これでオリンピック開催とは狂気の沙汰。▼中野林(出町正俊)さんが健康のことで退会されます。二十二年間ありがとうございました。▼「鶴彬を顕彰する会・通信はばたき」の最新号が完成しました。九月の高松でのイベントも決まりました。「顕彰ポスター」を募集(主幹・和川柳社)。購読希望の方ぜひ連絡を。

▼5月の連休、金沢卯辰山の「あかつき碑・つつじ祭」を予定しています。詳細が決まれば近隣の方に連絡します。よろしく。

▼石川県川柳協会から「交流句会」(誌上大会)の案内がありました。▼課題『石』、出句2句。選者五名の互選(山勝三、枅野勝男、伴淳子、宮田喜美子、谷尾心山)▼4月30日(金)必着。投句用紙にて。▼投句先・かほく市木津へ65・7井口武久宛。TEL076・285・0638 (周)

4月例会、「案内」(毎月第4木曜日)

- ◆例会 4月22日(木) ◆投稿×切:19日(月)
- ◆課題 「耳」 3句以内 ◆自由吟:5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。
- ◆コロナ急速拡大で例会は誌上となります。
- 投稿 FAX(076) 254-0762
- メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

「和川柳社」会報
会員募集しています!

同人:4000円/年
投句/購読:2000円/年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30(3-2) (渡辺 寛)

電話 FAX:076-254-0762 PC-mail:kananabe@popolo.org

携帯:090-9445-1302 携帯mail:kan-wata@i.softbank.jp

振込先:北國銀行中央市場支店 #191 普通 640「和川柳社」

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート&土の音工房《オカリナ制作》・上村彰》